CONECTANDO

辺野古土砂/首都圏メルマガ

No. 3　2022 年 3 月 13 日

編集・制作

辺野古土砂搬出反対！首都圏グループ

もくじ

ウクライナ→〇〇、ズデーデン地方→ポーランド　いまいち りょう　／

沖縄は観光気分で行くようなところじゃなかったよ…　毛利孝雄　／

不可能な工事は止めるべきだ　加藤宣子　／　琉球弧と中国と台湾有事　若槻武行　／

台湾有事に備え南西諸島への自衛隊配備-ノーモア沖縄戦-命どぅ宝の会　／

安倍元首相に“おまえが語るな”大合唱！／「不承認」支持　ブルーアクション　パンフ　／

3/24 南部遺骨土砂に関する院内集会　／

3/20 社会連帯カレッジ/ 沖縄復帰 50 年集会プレ企画「分断を超えて連帯へ」　／

5/28 辺野古土砂全協・総会　／「首都圏グループ」活動と組織


~~~
~~~

量虐殺など）する。2020 年 1 月 16 日には、ウクライナ語以外で書かれた広告を禁じる法を施行。出版物やテレビ番組、ネットサイトから看板などすべてが対象。ロシア語の影響力を排除する狙い。ロシア語を母語とする人は反発。商品・サービス情報をウクライナ語で記さない場合、最高（約３万円）の罰金が科される。ただ欧州連合（ＥＵ）の公用語を使うメディアは外国語広告を認める。

そんなこんなで、ロシア系住民の保護を口実にロシアは侵攻した。この後どうなるかわからないが、核兵器をもつ**ロシアの侵略がこれで終わるのかどうか…**。次のターゲットは？南下を目指すならトルコ（コンスタンチノープル）に入るかもしれない。トルコはしたたかなのでロ軍を平和的に受け入れる可能性もある。そして次は？　地図を見るとイスラエルだ。そこが気がかりだ。イスラエルとイランは水面下で交戦状態（レバノン・シリアで）と言ってもよい状態だ。そう遠くない将来、ロ軍がトルコに入るとイスラエルまでいく可能性がある。しかし、ここにだけは入ってはいけない。入るとイスラエルは必ず核兵器を使うだろう。それをはるかに上回る兵器も持っているという。ロ軍はここで全滅する。だけでなくロシアも滅亡するだろう。

ロシア人に友人・知人がいたら是非伝えてほしい。「絶対に入るな」と。これはある種の国際常識なのだが当のロシア人は知っているのか？ エリチンはそれを知っていたから、ロシアが南下しないためにクリミアをウクライナに譲ったのかもしれない。

「今からでも遅くない。ロシアを愛するロシア兵はみんなで命令を拒否して我が家にもどろう」と伝えたい。

~~~
~~~

地ある故の事件・事故に苦しみ、基地をこれ以上造ってほしくないという沖縄の民意について話した。

30 分ほどの面談を終えて、応接室を出た所にサンドコンパクション船の模型が飾られていたので、つい「90m の軟弱地盤の埋め立ては本当に可能なんですか」と案内をしてくれた社員に声をかけた。すると「未知数ですね」という答えが帰ってきた。本音であろう。

日本作業船協会のＨＰによると、サンドコンパクション船は、あおみ建設と不動テトラの 2 社が所有し、不動テトラの「ぱいおにあ第 30 フドウ丸」は 2018 年にリニューアルされ、70m までの地盤改良ができるという。軟弱地盤中に締め固めた砂ぐいを造成し、地盤改良を行う作業船である。

90mの軟弱地盤の埋め立ては、専門の海洋工事を請け負う企業が「未知数です」と言わざるを得ないほど「不可能」な工事なのだ。沖縄防衛局提出の「設計変更申請」でも、この軟弱地盤の改良工事について具体的な方法は示されていない（2021 年 11 月に玉木デニー沖縄県知事が不承認）。2021 年 3 月までに日本工営が設計を受注していたが、どうやって基地を作るのか、それすらはっきりしていない。そんな不可能な工事は直ちに止めるべきだ。

~~~
~~~

に延々と続く米軍基地のフェンスも目にしたはず。それらは母の戦争体験とも重なっていたかもしれない。
当時の私には、それ以上に話をつなげる力も、沖縄に対する興味や知識もなかった。先に「痛恨の」と書いたのは、おそらくこのときが、母の戦争体験と交わりうる唯一の瞬間だったのだということ。その瞬間を、私は何事もなかったかのようにやり過ごしてしまったのだ。

晩年になって、いつの頃からか短歌に親しむようになった母は、よく『ＮＨＫ歌壇』に投稿 していて「入選したんだよ」と、自作の載った冊子をうれしそうに見せてくれたことがあった。 書きためている短歌がかなりの数に上っていることを知って、私の方で整理するから一冊の本にまとめてみないかと話したことがあったが、生前には決してその全体を見せてくれることはなかった。2008 年 92 歳で生涯を閉じた。
遺品を整理する中で、短歌は２冊の創作ノートにまとめられていた。母の戦争体験ということでは、次の３首。

＊ 初恋の君のいませし街なりと旅来し老の血潮さわげる
＊ 征きてより逢うことのなき六十年訃報を聞けば涙こぼれぬ
＊ 黒髪は今は真白に霜置けど別れのいたみ今に忘れず

とくに「初恋の…」には、読み進めなくなるほどの存在感があった。晩年、足繁く信州に通った母をいとおしくも思う。母にとって「昭和」「戦争」の時代とはどのようなものだったのか、もう聞くことはできない。
私が初めて沖縄を訪ねるのは、母の沖縄旅行からはさらに 20 年近く後になってのことである。沖縄を知ることがなければ、母の戦争体験に思い到ることもなかっただろう。そして現在の私がある。
母の逝った年齢 92 歳を私の終年の定点とするとして、あと 20 年。戦後まもなくの時代を生きた一人として、次の世代に何を引き継げるのか、少なくなっていく時間の中で考え続けたい。
そして、あらためて新基地建設の進む辺野古、台湾有事を想定して進む南西諸島の軍事化を思う。さらに、核攻撃まで誇示してのロシアによるウクライナ軍事侵攻は現在進行形だ。
「軍隊は住民を守らない」「命どぅ宝」など沖縄戦から導かれた非戦の戦争観に対し、「私たちが享受している平和と繁栄は、戦没者の皆さまの尊い命と、苦難の上に築かれたもの」（令和３年度全国戦没者追悼式総理大臣式辞）など、本土に流布する戦争観のなんとあいまいなことか。
最近読んだ、大江健三郎著『晩年様式集』(2013 講談社）の終章の詩には、次の一節がある。

「 …… 否定性の確立とは
なまなかの希望に対してはもとより
いかなる絶望にも同調せぬことだ …… 」

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

琉球弧と中国と台湾有事

戦争をさせない非武装の運動を

若槻 武行（編集委員, 当会世話人）

何十年という長い年月も過ぎてしまえば、ついこの前のようだ。年を取ると時間が経つのが速くなる。日本は小生が生まれた時もまだ、中国を侵略・植民地化を進め、殺戮、強
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

奪、抑圧する戦争を続けていた。アヘン戦争以来近年まで、日本を含む欧米列強からの侵略で、中国・アジアは分断と抑圧で苦しめられて来た。

その構図は、日本人の差別意識と共に今も変わっていない。一時的に友好関係を保っていた時期もあったが、それが一たび崩れると、差別・抑圧とそれに対する恨みつらみがぶつかる……！ そんな国民感情を利用し、台湾有事、中国との戦争脅威が過剰に騒がれている。

1 月 7 日開催「日米外務・防衛担当大臣会議」(2＋2)で「琉球弧」全域(第一列島線)の対中国戦争の最前線基地化の合意が明らかになった。

沖縄本島の辺野古新基地は、その要だ。普天間基地の単純な移転先ではない。滑走路を二本、オスプレー搭載空母の軍港、弾薬庫などを完備し、普天間基地をはるかにしのぐ巨大な新基地である。しかし、その工事は今、難航している。辺野古新基地の埋立て工事は、まだ８割以上が残っている。

※ 最初の工事は大浦湾の深場の埋立てからだった。沖縄県は不許可だが、なぜ後回しにしたか。この海域の水面下 30m の海底が 0～60m マヨネーズ状の軟弱地盤だったから。その地盤改良のため直径 1～2m の砂杭 7 万本を打ち込み、埋立てるという。しかし、90ｍもの砂杭は前代未聞、経験がない。技術的には無理があり、完成後の地盤沈下は十分予想できる。従って「この海域の埋立は不可能で、工事はとん挫する」と専門家の多くが言っている。

それでも辺野古新基地建設工事を続けたい理由はなにか。メンツとか、利権とかというつまらない理由が強い。それ以上に、台湾有事に備えることも大きいだ。日本の自衛隊を背後から支えたいためで、米軍というより日本政府の意向ともいえよう。

中国の侵攻に備え、沖縄本島から南に宮古・石垣・与那国島・台湾と、北は奄美群島、トカラ列島、大隅諸島、九州の「琉球弧」軍事要塞化が進んでいる。ここは「台湾有事」に中国との戦場となる。だから自民党政権は辺野古新基地工事を強引に進める。特に安倍政権時代の 2019 年から、この島々に最新型のミサイルを配備した自衛隊基地建設を本格的に進めている。

まず、宮古島に陸自警備部隊、地対艦・地対空ミサイル部隊など 800 人規模を、石垣島も同様に地対艦・地対空ミサイル部隊など 600 人規模を、与那国島では最新大型レーダーを装備した沿岸監視部隊 150 人規模を配備した。

時を同じくして、奄美群島でも自衛隊の基地が増強・増設されている。奄美大島奄美市に 2019 年 3 月、奄美駐屯地に陸自の地対空ミサイル部隊他を配備、瀬戸内町節子では同じ 2019 年に、瀬戸内分屯地に陸自の地対艦ミサイル部隊他を、島内ではさらに空自の高性能レーダー部隊、海自の基地分遣隊などがあらたに配備された。

喜界島や沖永良部島等にも高性能レーダーが配備の通信基地になっている。また、奄美の北の薩南諸島で種子島の隣の馬毛島にも陸海空自と米軍の飛行場があり、情報本部として事前集積拠点になって、「琉球弧」では軍事要塞化が完成しつつある。

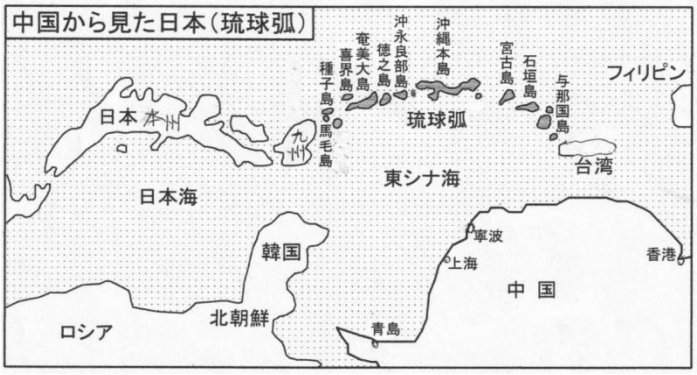
中国にとっては「目の上のたん瘤」どころではない。まさに対中国最前線基地だ。地方自治・民主主義もない、「本土」との分断は露骨だ。ずでに「一触即発」に備えている。気が付いたら、戦争はもうそこまで来ていた。

「国民」は何も知らされず「アメリカが助けてくれる、一緒に戦ってくれる」と期待しているが、それは甘い。アメリカは、最初はいつも当事者にヤラせる。朝鮮半島でもアジア各地でも、アフガンでもそう。逃げ出したアメリカがどれほどいい加減だったか……。

ウクライナでも出てこない。勝てそうになったら出て来る（相手のアメリカを引きずり

込む作戦に乗って）。最後は放り出して逃げ出す。アフガンなど気の毒だ。

非武装、非暴力を批判する人は多い。侵略されないために、武装が必要だという。武装は必ずエスカレートする……。「非武装は無力だ」と言う人が多いが、小生は飽くまでも、武装する前に「戦争をさせない、やめさせる、反戦・平和・非武装・非暴力の運動に自信をもって邁進したい」と思っている。



自然豊かで平和な奄美の沖永良部島にもレーダー通信基地が作られた

～～～

この日米の中国をにらんだ共同の軍事計画は、当然対象にされた中国の強い反発を呼んでおり、計画通り軍事行動が展開されると、島々が真っ先に反撃の対象とされ戦場となることは必至です。ひとたび戦火が開かれると島々は逃げ場のない地獄の戦場と化すことは誰の目にも明らかであるにもかかわらず、残念ながら、日米両政府からは「有事」を回避するための外交努力が全く窺がえません。それどころか、日本政府はことさらに「中国脅威」を喧伝して国民世論を「戦争やむなし」に誘導しているとさえ思えてなりません。岸田首相はじめ政府閣僚、自衛隊関係者の言動に身震いする恐怖を覚えます。

全国の友人の皆さま。　私たちはこのような事態にあたり、再び沖縄の島々を、「南西諸島」全域を戦場にさせまいと、去る１月 31 日「ノーモア沖縄戦　命どぅ（ヌチドゥ）宝の会」を設立し、県内外に「戦争反対」「外交で平和を築け」との私たちの強い思いを発信することにいたしました。会の設立趣旨、活動計画など詳細については、ホームページをご覧下さい。戦争へと暴走する日米両政府の拙速な軍事行動を止め、対話による平和を求める世論を作り出し、その力で無謀な戦争を止めましょう。全国の皆さまのご理解とご賛同、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。戦争へとひた走る政府の暴走を共に止めましょう。　（2022 年２月５日）

～～～

・最寄り駅－国会議事堂前・霞ヶ関・虎ノ門

[2] 公害等調整委員会の傍聴

＊１５時３０分～
＊中央合同庁舎第４号館 10 階　公害等調整委員会審理廷
＊傍聴者の人数制限があるため、抽選の場合があります

[3] 院内集会

＊公害等調整委員会審理終了後　１７時ごろからを予定
＊衆議院第２議員会館 多目的会議室
※１６時３０分より通行証を配布します

＊具志堅隆松さん、谷 大二さんの講演
「辺野古埋立工事の今後と沖縄南部地区の土砂問題」
＊自治体意見書採択－各地の取り組みの交流
＊資料代　500 円

※３.24 院内集会の講師の変更について

すでにご存知の方も多いかと思いますが、**北上田毅さんが体調を崩され**ていて、24 日の参加は困難になりました。北上田さんには、健康の回復を最優先にお願いしたいと思っています。

また、**具志堅隆松**さんは沖縄での予定との調整で、リモートでのお話しいただくことになりました。

沖縄からは「ガマフヤーを支援する会」の中心で活動されている**谷大二**さんが上京され、お話をいただくことになりました。

【呼びかけ】
平和をつくり出す宗教者ネット／「ガマフヤー」を支援する会
東京都渋谷区神泉町８－７　日本山妙法寺内 090－6711－5573（江上）

【協賛】　沖縄･一坪反戦地主会関東ブロック／沖縄の闘いに連帯する関東の会／辺野古土砂搬出反対!首都圏グループ／東京･地域ネットワーク／戦争させない千代田の会／オールめぐろの会／平和を学ぶ会・台東／大田区議会請願人／辺野古に基地はいらない in 三鷹／辺野古問題を考える小平市民の会／東村山市議会陳情人一同／沖縄県民と連帯する府中の会／沖縄とわたし@町田／対話による解決を求める日野市民の会／沖縄基地問題を考える小金井の会／清瀬市議会陳情人一同／沖縄支援版画ビラ撒き東久留米／辺野古新基地問題を考える川越の会／上福岡沖縄てぇげぇの会／九条の会･さいたま／入間市議会陳情人／沖縄の映画を観よう!かわさき／静岡･沖縄を語る会／辺野古に土砂を送らせない!山口のこえ　（3/2現在）

~~~
~~~

刊ゲンダイ』2/28 のデジタル版。要約すると――

<首相在任中「ウラジミール & シンゾウ」と仲の良さをアピールして、プーチン大統領の増長に加担した責任を果たすべきなのに、まるで他人事ですね＞ ＜おまえがウクライナを語るな！>

安倍氏は「ウクライナがロシアに侵攻されたのは核を放棄したから」という趣旨を語り、NATO 加盟国が採用している「核シェアリング」について日本も、議論すべきと強調した。日本の国是「非核三原則」について、「『持たず、つくらず、持ち込ませず』のうち『持ち込ませず』を放棄すべきだ」と言いたいのは見え見え。

<ダメだこの人。ニュークリア・シェアリングのことちゃんと調べてないでしょ？>

現在、核シェアリングは、NATO に加盟するドイツ、ベルギー、イタリア、オランダ、トルコの 5 カ国と核保有国アメリカとの間で行われている。しかし、非核三原則を捨て去って大丈夫なのか。

軍事ジャーナリストの前田哲男氏はこう言う。

―― 核シェアリングは、アメリカと欧州の NATO 加盟国が冷戦時代から取っている体制です。核を保有していない NATO 加盟国にアメリカの核を配備している。欧州各国のパイロットは核投下の模擬訓練も受けています。ただし、核を管理する権限はアメリカにあり、有事の時、使用するかどうかの決定権もアメリカにあります。“シェア”した国が勝手に使えるわけではありません。レンタルとは違います。問題なのは、NATO の核シェアリングは、“核不拡散条約（NPT）”の締結前から存在していたということです。すでに存在していた体制だったから NPT 締結後も認められている。日本の場合は、NPT に署名した後に実施することになり、NPT 違反に問われる可能性があります。抑止力が高まる可能性はあるでしょう。しかし、中国や北朝鮮、ロシアといった周辺国を刺激するのは間違いない。韓国が核保有に動く可能性もあります。北東アジアの緊張が一気に高まる恐れがある。それだけにアメリカが“核シェアリング”を認めるかどうかは分かりません。――

安倍氏一派は、ウクライナ危機に便乗し「敵基地攻撃」「原発推進」を進めようとしている。火事場ドロボー的なやり方は、ロクな結果にならない。安倍元首相はいつ、大親友のプーチン大統領を説得しに行くのか．．．

～～～

美ら海を守れ！ 辺野古新米軍基地は中止を！ 知事「不承認」これだけの理由

美しく豊かな沖縄県名護市辺野古・大浦湾の海を埋め立て、新たな米軍基地を押しつけようとしている日本政府。2021年11月25日、沖縄県の玉城デニー知事は、政府・防衛省が県に提出していた設計変更申請を「不承認」としました。政府はこれに従い、ただちに建設を中止すべきです。

◎広がる軟弱地盤 作っても沈む、崩れる！

国が辺野古新米軍基地の設計変更申請を行ったのは、建設予定地に広大な軟弱地盤があることを認め、大規模な地盤改良工事が必要になったからです。その軟弱地盤は水深 90m にまで広がっていますが、現在の技術では水深 70m までしか改良できません。ところが沖縄防衛局は、巨大な護岸を作る下に広がる水深 90m の B27 地点の地盤データを調査していないのです。専門家の分析では、「震度1の地震でも崩壊する危険」があります。県は「災害防止に配慮しておらず、合理性のない計画だ」と、「不承認」にしたのです。

★政府は軟弱地盤隠していた！

実は軟弱地盤の存在は、4年前、故翁長雄志知事（当時）が基地建設の埋め立て承認撤回を表明した時、すでに政府委託の地質調査業者の報告書で明らかになっていました。しかし、政府は「知らない」とうそをつき、埋め立て工事を強行したのです。

◎建設に15年余、2・5兆円超 完成の見込みなし

地盤改良に伴う工事には、政府の試算でも工期が今後12年、工費も9300億円かかります（県の試算では15年、2・55兆円超）。しかも、実際には作っても作っても地盤沈下してしまい、完成の展望はないのです。"これでは、政府が建設の理由にしてきた「1日も早い普天間基地の危険性除去」にはつながらない"と、県は「不承認」決定を下したのです。

★米シンクタンクも「辺野古は困難」

米保守系シンクタンク戦略国際問題研究所（CSIS）2021年3月18日報告書

「完成が2030年までずれ込み、費用も高騰し、困難に直面している」「完成するとは考えられない」

2021・12・4 県庁行動

辺野古新基地で防衛省が計画している地盤改良案

◎豊かな生物多様性の海 ジュゴンもサンゴも死滅する

建設予定地の辺野古・大浦湾には、国際保護動物ジュゴンをはじめ、5300種類の生物と1万7000体群のサンゴが生息。県も自然保護ランク1に指定しています。しかし、政府の計画では、ジュゴンについても水中音調査が行われず、工事による地盤隆起の影響も調査されていません。環境が破壊されるのは必至です。

国際保護動物・ジュゴン

ながめる豊かなサンゴ

◎沖縄戦戦没者の遺骨を投入!? 県民の心踏みにじる

国の計画では、基地建設に必要な埋め立て土砂を沖縄本島南部から採取しようとしています。そこは、太平洋戦争で県民の3人に1人の命が失われた沖縄戦の激戦地。多数の遺骨が眠る土地を掘り返し、基地建設に投入する――「人道的に許されない」と玉城知事は明言しました。

▲遺骨が含まれる土砂採取中止を訴える具志堅隆松さん

▲沖縄戦戦没者が眠る摩文仁の丘

◎国の身内の審査で県の決定を覆す!? 民主主義破壊の暴挙です

岸田政権は、県の「不承認」決定に対し、防衛大臣が国土交通大臣に「行政不服審査」を申し立て、これを優そうとしています。しかし、そもそも行政不服審査は「私人」が自治体等による行政措置の是正を国の機関に訴えるものです。しかも、防衛省には国土交通省から35人も出向し、一緒に基地建設推進をしている関係です。その身内の国土交通省に、防衛省への自治体の異議申し立てを取り消させる――こんな暴挙は許されません。

2021・12・3 県民集会

発行◉安保破棄中央実行委員会／制作協力◉日本平和委員会

～～～

を元名護市長の稲嶺進さん、日本社会連帯機構代表理事の永戸祐三さんの対談で語り合っていただきます。

「核抜き本土並み」を思い描いていた沖縄県民の期待した本土返還は実行されず、むしろ沖縄と本土での基地負担の割合は 50 前より多くなっています。加えて新しい基地を辺野古に作るという暴挙は県民投票で明確に反対されたのにも関わらず粛々と進められたままです。地域を交付金という名目を使って分断し、住民の主体性を奪うような国のあり方に抗う力を高めていくためには何が必要か、また、本土にあって沖縄の現状をどう見つめ、連帯していくのか、今こそ問われているときではないでしょうか。日本社会連帯機構では改めてこの返還 50 年の時に模索を重ねてまいります。

リアル申し込み：

日本社会連帯機構事務局　　電話 03(6907)8051 担当:飯沼、小松原

会場：〒170-0013 豊島区東池袋 1-44-3 池袋 ISP タマビル 8 階

（開場時間は 13:30）**池袋駅東口より徒歩 6 分。**

地図があります。当メルマガ編集部　若槻へ

オンラインは申し込み　――　http://urx.space/R801

パンフ・チラシ等を掲載したメルマガは、容量オーバーで、多くの皆さんにはお送りできませんでした。そこで、減量したメルマガをお送りしししたのですが、

希望者には、チラシの PDF をお送りしますので、ご連絡ください。　（若槻）

～～～

～～～